

大学 OBOG が世界で活躍する姿を見て、自分も将来は同じ場に立ちたいと思ったのが、今回の WUOC 参加を決めた大きな理由でした。

国内戦績の悪い自分が、今後代表選手候補に名乗りをあげるためには、今回の挑戦は必要不可欠であると考えたのです。

実際、選考会後の競技環境の充実ぶりには目を見張るものがありました。

私が入部した筑波大学は大会参加はおろか、指導を仰ぐ先輩もいない環境でしたので、この恵まれた環境に置いて頂けただけでも WUOC に挑戦した価値はあったと感じています。

また、後輩達の向上心を刺激したいという思いがありました。

大学時代、チーム全体の技術力の底上げを優先してしまい、素質ある後輩達の闘志を刺激することが十分に出来ていなかったと感じています。

底力がついてきた今の筑波大学にとって、必要なのは果てぬ向上心への刺激。

自分が最後まで得られなかったものを、せめて後輩に、という思いがありました。

そういった訳で、WUOC への参加は、自分にとっては始まりでした。

WUOC に向けては、現役時代以上にレースをこなし、ランニングトレーニングを積んでいきました。特に強化合宿では、常に課題を意識し、精度の高いレースをすることに重点を置きました。その結果、残念ながら大会にはピークを持っていくことが出来ませんでした。精度の高いレースが自分にも出来るのだという嬉しい発見をすることが出来ました。

本番の WUOC では、受け入れがたい結果を残すこととなりました。

しかしメンバー達から嬉しい言葉を貰い、日々気持ちを切り替えてレースをすることが出来ました。結果は決して満足出来るものではありませんが、はじめて日本代表として海外トレインを堪能することが出来、かえがたい経験をすることが出来ました。

さらに、WUOC を通して、自分の基盤技術を再確認することが出来、また今後どの技術精度を高めるべきかを意識出来たことは、今後の競技生活に活かしていけると確信しています。社会人となり、引退を決める方が多い中で、WUOC への参加を通じて競技を続けるきっかけが得られたことに心から感謝しています。

次はシニアの日本代表になれるよう、今後の競技生活はより密度の濃いものにしていきます。

最後になりますが、今回の WUOC 参加にあたり、ご支援ご声援を下さいました皆さま、そして共に WUOC をやりきったメンバーに心から感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。